

【設例 No. 34】

B社は、資産総額や売上高でみて、企業規模がA社の1割強しかないが、A社が当期純損失を計上しているのに対し、B社は企業規模に比べて多額の当期純利益を確保している。このことからB社の収益性が顕著に高いことが直観的にも明らかである。

よって、下記の文章の①～④の数値及び(ア)・(イ)の語句を求めなさい。

この事実を計数的に把握して、その要因を検討するために、株主の観点からみた収益性の指標としてROEを算定し、これを売上高純利益率・総資本回転率・財務レバレッジという3要因の積の形に分解した結果は次のとおりである。この財務レバレッジは自己資本比率の逆数をいう。なお、この計算に際して使用する資本の金額は、期首と期末の平均値によることとする。また少数株主持分は固定負債として扱う。

	A社	B社
R O E	△2.11%	(①) %
売上高純利益率	△1.00%	(②) %
総資本回転率	0.669回	(③) 回
財務レバレッジ	3.165倍	(④) 倍

この結果によれば、(ア)と(イ)について、B社の方が大きい値をとっているが、なかでも(ウ)の差異が最も顕著であることがわかる。

【資料】 A社とB社の連結財務諸表

(単位：百万円)

	A社		B社	
	前期	当期	前期	当期
[抜すい] 連結貸借対照表				
流動負債	633,629	588,671	108,166	95,064
固定負債	554,237	620,895	54,288	52,442
少数株主持分	91,948	93,842	763	685
自己資本	607,000	585,976	64,609	79,647
負債・資本合計	1,886,814	1,889,384	227,826	227,838

[抜すい] 連結損益計算書

売上高	1,312,829	1,263,196	185,862	180,938
営業利益	111,652	58,988	18,439	14,731
営業外収益	14,908	15,445	3,459	3,065
営業外費用	28,534	29,963	3,770	3,001
経常利益	98,026	44,470	18,128	14,795
当期純利益	24,724	△12,605	9,142	7,985

【解答&解説】

	A 社		B 社		高い方
	計算基礎	数値	計算基礎	数値	
ROE (%)	$\frac{\Delta 12,605}{(607,000 + 585,976) / 2}$	(-) 2.11 (%)	$\frac{7,985}{(64,609 + 79,647) / 2}$	① 11.07 (%)	B社
売上高純利益率 (%)	$\frac{\Delta 12,605}{1,263,196}$	(-) 1.00 (%)	$\frac{7,985}{180,938}$	② 4.41 (%)	B社
総資本回転率 (回)	$\frac{1,263,196}{(1,886,814 + 1,889,384) / 2}$	0.669 (回)	$\frac{180,938}{(227,826 + 227,838) / 2}$	③ 0.794 (回)	B社
財務レバレッジ (倍)	$\frac{(1,886,814 + 1,889,384) / 2}{(607,000 + 585,976) / 2}$	3.165 (倍)	$\frac{(227,826 + 227,838) / 2}{(64,609 + 79,647) / 2}$	④ 3.159 (倍)	A社

よって、B社は3つの指標のうち、(7) 売上高純利益率と(i) 総資本回転率が大きい値をとっている。